

ティーチング・ステートメント

所属 横浜商科大学商学部

名前 亀井隆太

作成日 2020年9月17日

【責任】

授業では専門とする「民法1・2」の他、同じ法学分野の「日本国憲法」、民法その他の法律を学ぶ演習科目である「ゼミナール1～6」、1年生のクラス担任を務める「社会力基礎演習1・2」、他に「ICTリテラシー1・2」を担当している。自動車部の部長を担当している。

【理念】

教育の理想としては、自発的に法学の勉強に取り組み、学生同士で教え合ったり、刺激し合う場を学生と共に作ることができればと考えている。理念としては次の①～③を挙げたい。

①社会に対して関心を持つことができる教育を行う。②曖昧な知識ではなく正確な知識を身に着けるよう教育を行う。③偏見にとらわれることなく、何事も幅広い視野で考えることができるような教育を行う。

日々のニュースにほとんど関心がなく、社会について語る正確な知識に乏しい学生が多いとよく感じる。社会正義といったことに全く無関心な学生も多い。一昔前に比べると、多くの情報に遥かに接しやすくなった現代であるが、よく言われるように、自分に関心がある情報ばかりに接するようになっていっているように感じている。知識がなければ考えることもできない。より深く社会を知る上ためにも、最低限身に付けなければならない知識があることを覚えてもらい、自分なりの正義感覚を養ってほしい。また、自分自身で進んで勉学に励み、仲間と切磋琢磨して法学的素養を養ってほしい。

【方針・方法】

このような理念を実現するために、所属校では、第1に、「正確な知識を身につける」、第2に、「ニュース（特に法に関するもの）に関心を持つ」、第3に、「得た知識の再構成ができる」、第4に、「多様な価値観・考え方が存在することを知る」、という方針で活動している。

第1「正確な知識を身につける」

正確な知識を身につけるため、知識にメリハリをつけるように意識している。具体的な個々の知識の定着を重視している。問題集を解き、知識が定着したのか・してないのかをはっきりと分かってもらうようにしている。法律の学習では、学んだ気になってそれだけで満足してしまうおそれもある。ゼミナールでは、できるだけ早期にビジネス実務法務検定3級に合格できるように指導している。曖昧な知識では役に立たないこともあることを気づいてもらうようにしている。さらに高度な知識を必要とする検定・資格試験も薦めて学習を促している。

第2「ニュース（特に法に関するもの）に関心を持つ」

授業・ゼミナールでは、時事の話題を積極的に取り入れ、時事のニュースに関心を持ち、ニュースを見る習慣をつけてもらうようにしている。学生に、法学に関わるニュースを取り上げるプレゼンテーションをしてもらい、一緒に時事の問題について主に法学的視点から多面的に考える訓練をしている。

第3「得た知識の再構成ができる」、

知識を違う角度から再構成ができるように、ワークを課して知識を応用できるか確認するようにしている。具体的には、授業で習った知識を使って一定の条件の下で作文ができるかを試したり、問題を作って他の学生に解かせたりといったことを行っている。知識が完全でない場合には、そもそも問題として成立しないものを作ってしまうということが生じる。そのような失敗を通じて、理解度を高め、応用力をつけることができる。

卒業論文に取り組む学生には、単に情報を収集し、並べるだけでなく、目次立てや章立て、段落分けにおいても、体系的に論述するよう指導している。

第4「多様な価値観・考え方が存在することを知る」、

価値観の違いや、考え方の違いにより、必ずしも答えが1つに定まらない問題を取り上げ、いろいろな考え方がありうることを知り、自然と多様な価値観を尊重できるようになってもらうように工夫している。考え方が2つ、3つに分かれるような議論においても、他の考え方のメリットや、自分が選んだ結論のデメリットも知ってもらい、意識的に当初抱いた考えに揺さぶりをかけるようになことも適宜行っている。

【評価・成果】

- ・本学で、民法に興味をもつ学生が徐々に増えている（授業の受講生、ゼミナールの希望者数）。
- ・ビジネス実務法務検定3級の合格率、早期合格の割合が年々高まっている。
- ・難易度の高い検定にチャレンジする学生が増えている。

【目標】

- ・勉強への興味から、受講者やゼミナール希望者が増えるように魅力ある授業を行う。
- ・卒業論文で優秀な成績が取れるよう、丁寧な指導を行う（2021年3月）。
- ・ビジネス実務法務検定2級、宅地建物取引士の合格者が指導する学生から、数年以内に出るようになる（2022年12月）。
- ・学生同士で教え合ったり刺激し合う「場」を、学生が自発的に作るようになる。